

サトウキビNi27の奄美地域における夏植え＋株出し体系での収量性

夏植え多収な「Ni27」は、12月収穫後の株出し栽培で収量・品質が「NiF8」と同等以上、夏植え＋株出し体系で上回る

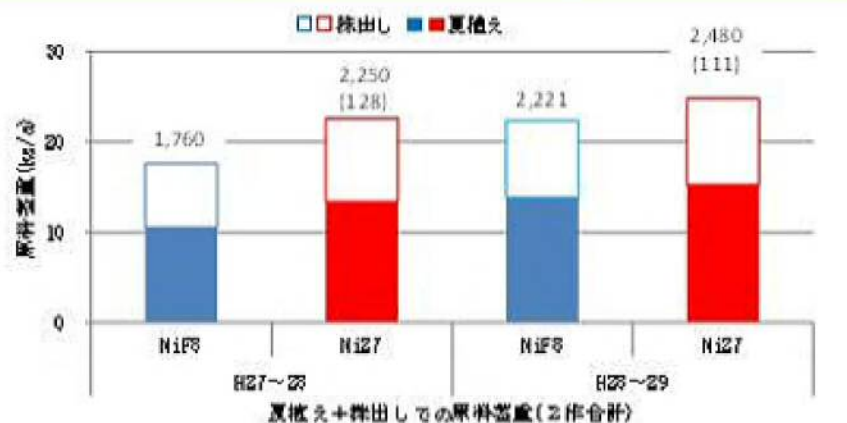
背景・目的

- 奄美地域の夏植えは、サトウキビ収穫面積の15%を占め、大規模農家等を中心に作付け
- 夏植え多収な奨励品種「Ni27」は、株出しにおける茎数確保が必要
- 「Ni27」の夏植えを1～2月より平均気温の高い12月に収穫・株出し管理をすることで、株出しの茎数確保が可能

成果の内容

「Ni27」の夏植え＋株出し体系の収量性

- 「Ni27」の夏植えは12月に収穫しても、原料茎重が「NiF8」より多い
- 12月収穫後に株出し管理をすることで「Ni27」の原料茎重・可製糖量は安定
- 夏植え＋株出し体系の原料茎重は「Ni27」が「NiF8」を上回る



導入メリット

経営改善効果

夏植えに「Ni27」を導入し、株出し体系を組み合わせることで、サトウキビ生産性が向上し、農家経営が安定化

労力分散効果

1～4月は、収穫・春植え植え付け・株出し管理と作業が重複し、労働力が競合



夏植えに「Ni27」を導入することで、7～9月植え付け、12月収穫と作業や労力の分散が可能

期待される効果

奄美地域における夏植え＋株出し栽培体系の生産安定

普及対象・範囲

奄美地域のサトウキビ栽培農家

公募(緊急展開)